



タピスリーの裸婦 1923年 京都国立近代美術館

*Tawarayama*

生誕120年

# 藤田嗣治 展

パリを魅了した異邦人

今、明かされる伝説の画家のすべて

# — 今、明かされる伝説の画家のすべて

2006(平成18)年は藤田嗣治の生誕120年にあたります。これを記念して、このたび、その全画業を紹介する展覧会をはじめて開催します。

藤田嗣治(レオナルド・フジタ)は、東京美術学校を卒業後、フランスに渡り、モディリアニらとともにエコール・ド・パリの代表的画家として活躍しました。とりわけ、裸婦に代表される“乳白色の肌”の美しさは、多くの人々の心をとらえてきました。その後中南米を旅行して日本に帰国しますが、第二次大戦後はフランスに戻り、やがて帰化して、再び日本の土を踏むことはありませんでした。

これまで何度か開催されてきた藤田嗣治展は、その画業の全体像を示すには、必ずしも十分とはいえませんでした。また、その波乱に満ちた生涯ゆえに、数々の逸話による伝説としての藤田像が、画家としての評価において、一人歩きしてしまった感もあります。

この展覧会は、パリ時代から晩年にいたるまでの代表作約100点を、フランスやベルギーを加えた国内外から集めて展示します。日本初公開作品約20点を含めた作品を通して、あくまで一人の芸術家としての藤田嗣治の全貌を探り、伝説ではない、あらたな藤田像を見出そうとするものです。

## 第2章

### 日本へ

1930年代に入ると、藤田は、それまでの繊細な線描の作品から、より写実的な作品へと移行します。こうした傾向は、パリを離れ、中南米をまわって日本に帰国したあたりからより明らかになってきます。色彩は強くなり、また人やものの描写は重量感を増しました。こうした表現は、二科会での活動を経て、戦時中に描いた戦争画で頂点に達したように見えます。

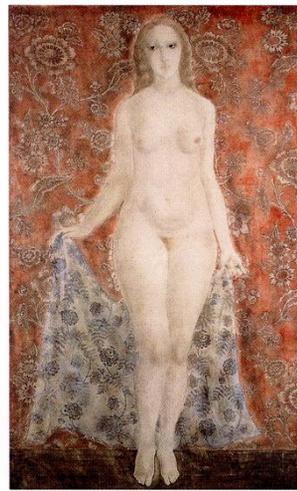
## 第1章

### エコール・ド・パリの世界で

藤田がフランスへと渡った1910-20年代、ピカソやモディリアニなど、多くの異邦人の芸術家たちがパリに集っていました。彼らはいつしか「エコール・ド・パリ(パリ派)」という名称で呼ばれるようになります。藤田はこの時期、これらエコール・ド・パリの画家たちと交流しながら、独自の画風を作り上げていきました。とりわけ藤田のトレードマークともなった、細く優美な線とやわらかな「乳白色の肌」を持つ裸婦像は高く評価され、藤田は一躍パリの寵児となります。



五人の裸婦 1923年 東京国立近代美術館



裸婦 1923年 フォール美術館



パリ風景 1918年 東京国立近代美術館



アツ島玉砕 1943年 東京国立近代美術館(無期限貸与作品)



カーニバルの後 1932年 平野政吉美術館



自画像 1936年 平野政吉美術館

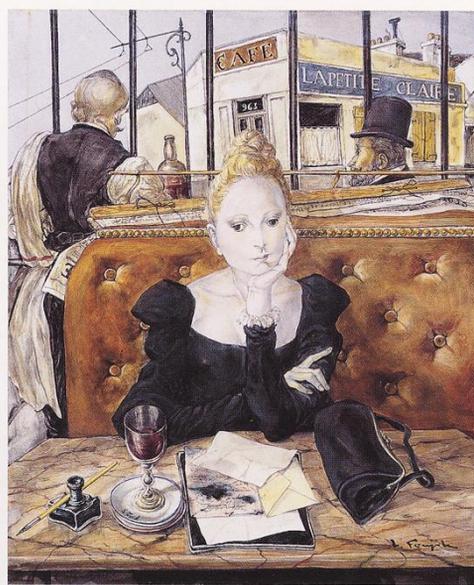
### 第3章

ふたたびフランスへ

戦後、藤田は戦争画を描いたことがもとで日本を離れ、ニューヨークを経て、再びパリへ戻りました。この時期の作品には、写実的な表現に、復活した藤田特有の線描の美しさが溶け合っているのが見られます。子どもたちを描いたユーモラスな作品や、カトリック改宗後に数多く描いた宗教画などに、藤田晩年の個性的な作風を見て取ることができます。



礼拝 1962-63年 パリ市立近代美術館



カフェにて 1949-63年 個人蔵



アトリエの自画像 1926年 リヨン美術館



By courtesy of Kimiyo Fujita

## 藤田嗣治 略年表

- 1886年 東京に生まれる。
- 1910年 東京美術学校西洋画科本科を卒業。
- 1913年 フランスに渡る。  
ピカソ、モディリアニ、スーチンらと知り合う。
- 1917年 パリのシェロン画廊で初めての個展を開催する。
- 1919年 サロン・ドートンヌに初入選し、会員に推挙される。  
その後、サロンに出品を続ける一方、パリのほかブリュッセル、アントワープ等で個展を開催する。
- 1931年 パリを離れ、ブラジル、アルゼンチン、ペルー、  
-33年 ポリビアを訪ね、メキシコを経由してアメリカに入る。
- 1933年 日本に帰国する。
- 1934年 二科会会員となる。  
戦時中は従軍画家として活躍する。
- 1949年 ニューヨークのブルックリン美術館付属美術館  
の教授として招かれる。
- 1950年 パリに移る。
- 1955年 フランス国籍を取得する。
- 1959年 カトリックの洗礼を受ける。
- 1966年 ランスのノートル＝ダム・ドラベ礼拝堂の  
フレスコ画を制作する。
- 1968年 チュールリッヒの州立病院で死去、81歳。

*Fujita*

## 開催概要

### ●東京展

会場／東京国立近代美術館 03-5777-8600 (ハローダイヤル)  
 会期／2006年3月28日(火)～5月21日(日) 月曜日休館(ただし、4月3日、5月1日は開館)  
 開館時間／午前10時～午後5時、金曜日は午後8時まで(入館は閉館30分前まで)  
 観覧料／

	一般	大学	高校	中学生以下
当日	1300円	900円	500円	無料
前売り	1100円	800円	400円	無料
団体(20名以上)	900円	600円	350円	無料

ホームページ／<http://www.momat.go.jp>

主催／東京国立近代美術館、NHK、NHKプロモーション、日本経済新聞社

後援／外務省、フランス大使館

### ●京都展

会場／京都国立近代美術館  
 会期／2006年5月30日(火)～7月23日(日) 月曜日休館(ただし、月曜が祝日の場合は開館、翌日休館)  
 開館時間／午後9時30分～午後5時、金曜日は午後8時まで(入館は閉館30分前まで)  
 主催／京都国立近代美術館、NHK京都放送局、NHKきんぎメディアプラン  
 京都新聞社、日本経済新聞社  
 後援／外務省、フランス大使館

### ●広島展

会場／広島県立美術館  
 会期／2006年8月3日(木)～10月9日(月・祝) 月曜日休館(ただし、月曜日が祝日の場合は開館)  
 開館時間／午前9時～午後5時、土曜日は午後7時まで(入館は閉館30分前まで)  
 主催／広島県立美術館、NHK広島放送局、NHKちゅうごくソフトプラン  
 中国新聞社、日本経済新聞社  
 後援／外務省、フランス大使館

お問い合わせ NHKプロモーション 03-5790-6424 日本経済新聞社 03-5255-2852

※本紙掲載作品を含め、会場によって展示されない作品があります。